

第3学年 社会科学学習指導案

1 小単元名「あまおうづくりにはげむAさん」

2 小単元の考え方

こんな児童だから

<学ぶ意欲・態度>

本学年の児童は、前単元『わたしたちの暮らしと商店』で、スーパーマーケットの工夫をたくさん見つけるために見学やインタビューをし、意欲的に調べる姿が見られるようになってきた。

<問題を解決する力>

- これまでの学習を通して、学習問題をつくる経験を積んで来ている。資料から分かることを自分の経験と比べて問題意識をもつことや学習問題づくりができるようになってきた。
- 見学ではインタビューを進んで行うことができ、事実をラベルにしてはることは意欲的にやっている姿が見られる。視点にそって事実を調べ、キーワード化していくことは少しずつできるようになってきた。
- 自分の意見と友達の意見を比べ、同じ点に気づく児童がだんだん増えてきている。また、調べた事実が、自分の視点とつながるかどうかわかりやすく考える児童もでてきている。一部の児童は、自分の調べる視点と事実についてはっきりとした根拠をもとに考えることができるようになってきた。
- 自分の調べた事実をラベル図に表すことができるようになってきた。マップにおいても、意欲的にかくことができている。ラベルの根拠を資料を使って説明したり、マップをもとに考えを分かりやすく表現することについては少しできるようになってきた。

<生きて働く知識（見方・考え方）>

『わたしたちの暮らしと商店』では、お店の人たちが消費者の立場にたって工夫していることを通してわたしたちの生活をよりよいものにしていくことを学習してきた。そこで、『福岡市で生産されるもの』では、生産者の立場にたって農家の人々が工夫しながら生産していることの学習を通して、生産と消費の両面から、そこで働く人たちが工夫しながらわたしたちの生活を支えていることに気付かせることができると考える。

こんな教材で

本小単元では、学習指導要領の内容(2)ア「地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分達の生活を支えていること」イ「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」の指導において、福岡市に住む農家の生産の工夫を調べ、他の地域と協力しながら生産していることや農家の仕事の特色を捉えさせることをねらいとしている。

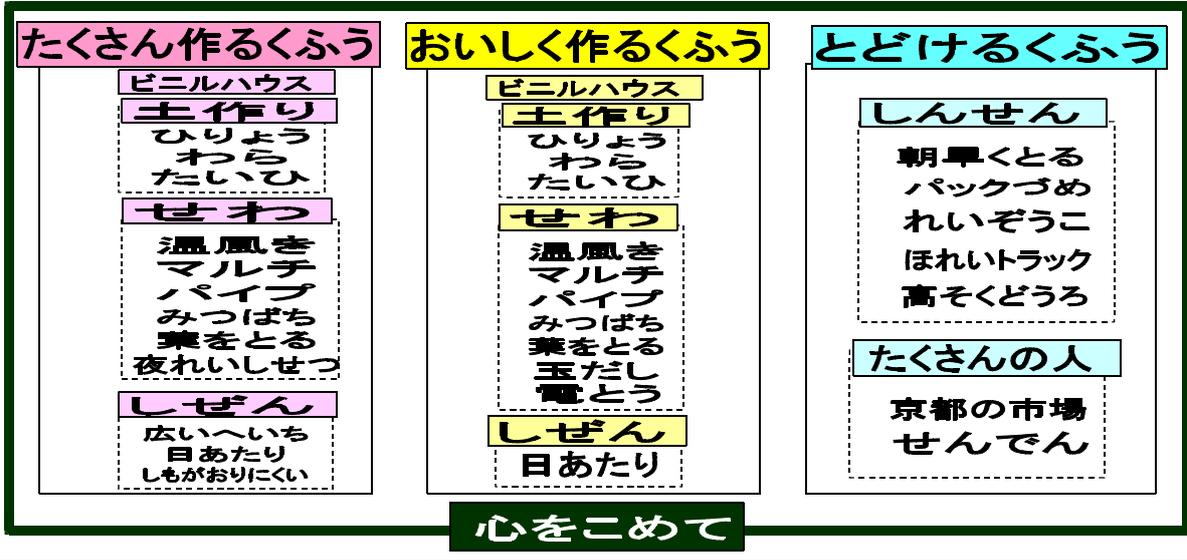
福岡市では、畑でつくられる作物の中でいちごが生産額ではトップである。いちごのブランドである「あまおう」は、市内だけでなく、京都にまで送られて、多くの消費者に食べられている。「あかい」「まるい」「おおきい」「うまい」のキャッチフレーズで、福岡を代表する作物となっている。

そこで、福岡市西区元岡であまおうづくりにはげむAさんを取り上げる。福岡市西区元岡では、多くの農家があまおうをつくっている。Aさんは、福岡市でも早くからあまおうをつくっており、「多くの消費者に美味しいあまおうを食べてほしい」という願いをもっている。そして、自然条件を生かしビニルハウスを使いながら、工夫や努力をしてあまおうを生産している。たんねんな土づくりにはじまり、水やり、温度調整、なえの手入れ等一つぶ一つぶしっかり世話をしながら、あまおうづくりにはげんでいる。Aさんのあまおうづくりの工夫や努力を通して、農家の仕事の特色や他地域とのつながりを理解することができる。本小単元の学習を通して、私たちが日頃食べている農作物一つ一つに対して、農家の願いや生産の工夫や努力に思いをはせながら感謝の気持ちを持ち、「農家をはじめとする生産者の工夫や努力のおかげで、わたしたちの生活が支えられている。」という見方や考え方をつくることができると考える。

こんな指導構想で

研究内容① 考えをつくり、高める表現物づくり
こんなラベル図で

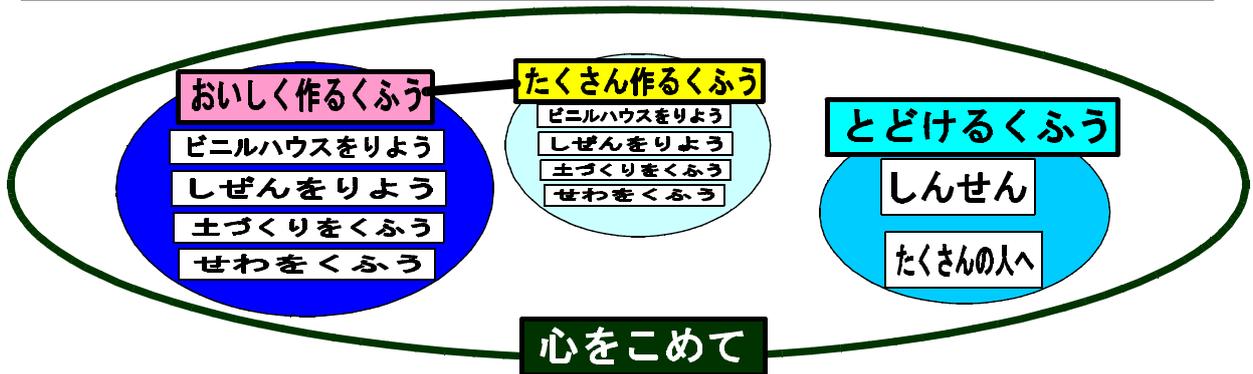
学習問題 Aさんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、どなくふうをしているのだろう。



Aさんの願いをもとにした学習問題を設定することで、3つの視点である「おいしく作るくふう」「たぐさん作るくふう」「とどけるくふう」に絞っていくことができる。その視点をもとに、資料や見学で調べた事実をラベルにしていく。「おいしく作るくふう」と「たぐさん作るくふう」の2つの視点に同じラベルがあることから、ラベルの根拠を確かめる必要性がでてくるとともに、おいしいあまおうをたぐさん作る工夫へと2つの視点のつながりに気づかせることができる。3年生の発達段階から事実認識を確かにさせるために、視点とタイトル、ラベルの根拠をとらえさせていく。また、どの視点にも心をこめて作っているAさんの姿が見えるラベルを取り上げることで、3つの視点はAさんの願いが基になっていることに気づかせることができる。

こんなマップで

Aさんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、どなくふうをしているのだろう。



...さんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、しぜんやピニルハウスをりょうしながら土づくりやなえのせわをしておいしくたぐさんつくるくふうをしたり、たぐさんの人へしんせんなままとどけるくふうをしたりして心をこめてつくっている。

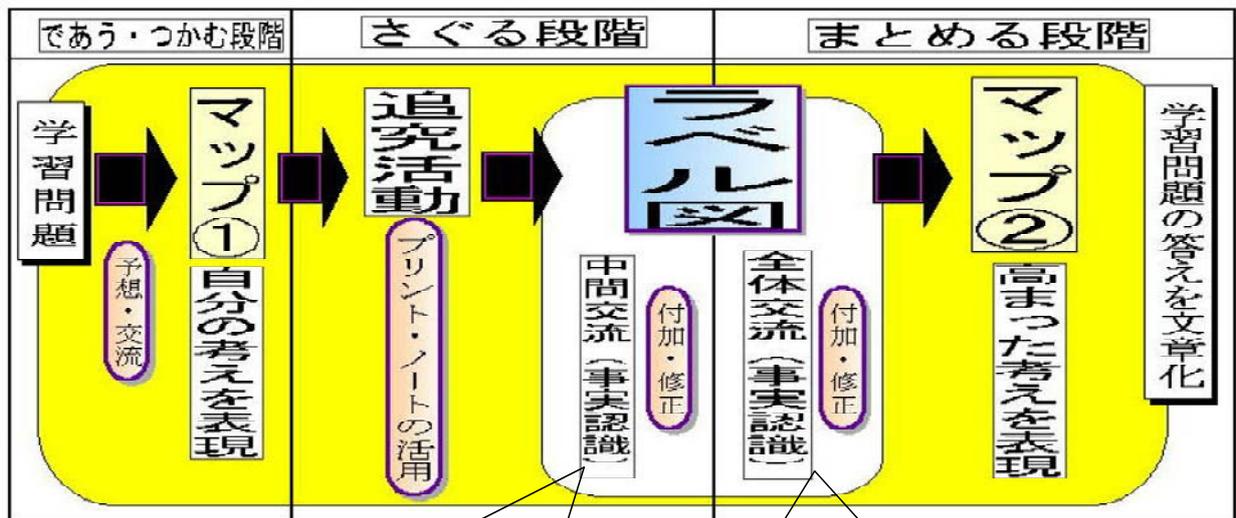
「おいしく作るくふう」と「たぐさん作るくふう」に同じラベルがたぐさんあることで、2つの視点がつながることに気づかせることができる。3つの視点に心をこめて作っているラベルが多いことに気づかせる交流を仕組むことで、3つの視点はどれもAさんのおいしく食べてもらいたい願いがあるからこそ、心をこめて、おいしく作る工夫が生まれ、傷まないように絶えず冷やして、たぐさんの人に届くように作っていることをとらえさせることができる。このようにマップづくりを通して、ラベル図の視点やタイトルのつながりについて理解を深め、学習問題の答えをまとめるのを容易にすることができる。

研究内容② 表現物を活用した交流活動の工夫

本小単元では、重点である「調べる力」を中心とした基礎・基本の力を育成するために、表現物とそれを活用した交流活動を下図のように位置づける。ここでは、農家であるAさんが取り組む工夫について、事実をしっかり調べ、根拠をもとにラベル図をつくったり、事実をもとに学習問題の答えを考える活動を確実に定着させることに重点をおくことが必要だと考える。

【つかむ段階～まとめる段階】

学習問題「Aさんは、あまおうをたくさんの人に食べてもらうためにどんなくふうをしているのだろう。」に対する予想をマップ①に表した後、「さぐる段階」でラベル図をつくり、ラベル図の中間交流、「まとめる段階」でラベル図の全体交流をし、マップ②に表すことを通して、徳安さんの生産の工夫について事実認識を高めることができると考えている。



交流の組織化

実態カルテをもとに、「たくさん作るくふう」「おいしく作るくふう」「とどけるくふう」の3つの視点の中で、同じ視点で調べている児童を2～3名のグループで構成し、計画的にグループや個人に支援する。

はじめに、中間交流を通して、事実認識や考えの交流がしっかりできるように、中間交流の手順やポイントを確認する。

次に、ラベル図の検討をより確かなものにするために、お互いのラベル図を説明し合い、自分と同じラベルには、印をつけさせる。違うラベルについては、学習問題「とくやすさんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、どんなくふうをしているのだろう。」とタイトル・ラベルがつながっているかどうかなどを考えながら、質問や意見を出し合い、整合性の検討を行う。交流後、ラベル図を付加・修正し見直し、ラベル図を再構成させる。

場の構成

話し合いがしやすいように、同じ視点で調べている児童を近い座席にしておく。

ラベルの根拠を説明しやすいように、調べてきた資料やカードをクリアファイルに入れ、机の上に置かせておく。

交流の組織化

交流活動が効率的かつ意欲的に取り組めるように、実態カルテをもとに、多くの児童に発表させラベルを付け加えていく。

「おいしく食べてもらいたい」という徳安さんの願いに気づかせるために、「おいしく作るくふう」「たくさん作るくふう」「とどけるくふう」の順で事実を発表させる。事実の認識がしっかりできるように、ラベルが視点の理由になっているか、学習問題の答えにつながるかを吟味させていく。また、心をこめてつくっている徳安さんの願いにつながるラベルを考えさせる。ラベルの検討が全体でしやすいように、移動できるようなカードにして板書する。そして、児童の発表に合わせてラベルを移動していく。

場の構成

児童が、調べたラベルについて根拠になる事実を説明できるように、発表資料を児童から近く、全体から見やすい位置に掲示しておく。

こんな目標と指導計画で

3 小単元の目標と指導計画（全15時間）

- 学ぶ意欲・態度
福岡市でつくられる農産物に関心を持ち、あまおう作りにはげむAさんの工夫を意欲的に調べることができる。
- 問題を解決する力
 - ・ 福岡市の農業生産の資料や自分の経験をもとに、あまおうの生産の工夫について問題意識をもつことができる。（課題を発見する力）
 - ・ Aさんのあまおうづくりの工夫について、資料を探したり実際にインタビューしたり見学したりして、調べることができる。（調べる力）
 - ・ Aさんのあまおうづくりの工夫について、事実をもとに学習問題の調べる視点とタイトル、キーワードをつなげて考えることができる。（考える力）
 - ・ Aさんのあまおうづくりの工夫について調べたことをラベル図やマップで表し、事実をもとに説明することができる。（表現する力）
- 生きて働く知識（見方・考え方）
福岡市西区に住むAさんは、自然条件やビニルハウスを利用しながら、土づくりや苗の世話を工夫したり、消費者に新鮮に届ける工夫をしたりして、あまおうをつくっていることを理解することができる。

段階	配時	学習活動と内容	基礎・基本の力と支援
であまおう	1	1 福岡市の農産物について話し合う。 (1) 福岡市で作られる野菜の袋や箱をもとに、福岡市で作られる野菜について話し合う。 (2) 福岡市の農産物の種類と分布を調べる。 ・米 ・だいこん ・キャベツ ・いちご ・花	○ 私たちの食生活に関心をもたせるために、旬の食べ物の話をしたり、農産物がどこで作られているか話をしたりして、普段食べている農産物をふりかえさせる。 <b style="text-decoration: underline;">学ぶ意欲・態度 ○ 福岡市のどこでどんな農作物が作られているかとらえさせるために、福岡市の農産物の分布図に色ぬりをさせる。 <b style="text-decoration: underline;">課題を発見する力〔資料読解〕
つかむ	3	2 福岡市の主な農産物の総面積と生産額のグラフ、Aさんの資料をもとに学習問題をつくり、マップ①をつくる。 ① (1) 福岡市の農産物の作付面積と生産額のグラフを読み取り、主に作られている農産物の中で、いちごに関心をもたせる。 ① (2) あまおう農家のAさんから、いちごを食べさせてもらったことを想起させ、Aさんのあまおうの生産量とビデオをもとに学習問題をつくる。 学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Aさんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、どんなくふうをしているのだろう。 </div> ① (3) 予想をもとにマップ①を書き、学習計画を立てる。 〈予想〉 ・おいしく作るくふう ・たくさん作るくふう ・しんせんなままでとどけるくふう 〈タイトル〉 ・土作りのくふう ・世話の工夫 ・とどけ方のくふう	○ いちごに関心をもたせるために、福岡市の農作物の面積、生産額のグラフを提示し、食事の経験と比べながら気付いたことや疑問に思ったことを出させる。 <b style="text-decoration: underline;">課題を発見する力〔資料読解〕 ○ 学習問題をつくるために、5月にAさんが作ったあまおうを食べたことを想起させる1年間にAさんが作ったいちごのパックを視覚的に分かる資料を提示し、たくさん作っていることや、Aさんのあまおう作りの願いをビデオで知らせる。 <b style="text-decoration: underline;">課題を発見する力〔資料読解〕 ○ 学習問題の答えをしっかりと調べることができるように、予想をもとに調べたことを話し合わせ、視点が明らかになったところでマップ①をかかせる。 <b style="text-decoration: underline;">表現する力〔書き表す〕

<p>さ ぐ る</p>	<p>7</p>	<p>3 計画に沿って、資料や見学を通して調べ、事実をもとに調べカードやラベル図にまとめる。</p> <p>① (1) 見学の準備をする。 ・文書資料から分からなかったことをカードに書き、インタビューができるようにする。</p> <p>② (2) Aさんのいちご畑や西グリーンセンターを見学したり、インタビューをしたりして調べる。</p> <p>② (3) 見学で調べたことを、調べカードに整理する。</p> <p>① (4) 調べカードをもとにラベル図をつくる。</p> <p>① (5) 中間交流を行い、自分のラベル図を見直す。 ① 同質の小グループで、資料をもとにラベル図を検討する。 ② 交流して分かったことをもとにラベル図の付け加えや修正をする。</p> <p>① (6) 修正したラベル図をもとに、自分の考えを整理し、全体交流の準備をする。</p>	<p>○ 文書資料から学習問題の答えにつながる文を読み取るために、視点と合うところにアンダーラインを引かせる。 調べる力〔資料読解〕</p> <p>○ 分からないことや聞きたいことをはっきり整理させて見学をする。 調べる力〔資料収集・選択力〕</p> <p>○ ラベル図を書く力をつけるために、作成する手順を掲示する。表現する力〔書き表す〕</p> <p>○ 学習問題の答えを確かにするために、2～3名のグループで交流を行い、ラベル図の検討や付加・修正を行う。 考える力〔比較・関連〕</p>
<p>ま と 組 め 本 時 る</p>	<p>2</p>	<p>4 全体交流をして、ラベル図を再構築し、学習問題の答えを整理する。</p> <p>① (1) 学習問題の答えについて話し合う。 ・おいしく作るくふうについて ・たくさん作るくふうについて ・とどけるくふうについて</p> <p>① 5 ラベル図をもとに、学習問題の答えをマップ②で表現し、文章で書く。 学習のまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Aさんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、自然条件やビニルハウスを利用して、土作りや苗の世話などおいしくたくさん作る工夫をしたり、遠くの人にも新鮮なまま届ける工夫をしたりして、1つ1つていねいに心をこめて作っている。</p> </div> <p>予想される児童の変容の例</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>わたしは、はじめ「おいしく作るくふう」「たくさん作るくふう」「とどけるくふう」だけだと思っていました。しかし、みんなで話し合っ、ほかに、心をこめて一つ一つていねいに作っていることも分かりました。あまおうには、Aさんの思いやくふうがたくさんつまっていると思いました。</p> <p>わたしはあまおうを食べるとき、一つぶ一つぶをしっかりと味わって食べたいと思いました。そして、ほかのくだものややさいにも、きっと作っている人の思いやくふうがたくさんつまっていると思いました。</p> </div>	<p>○ 全体交流では、ラベル図をより確かなものにするために、実態カルテを活用しながら「おいしく作るくふう」「たくさん作るくふう」「とどけるくふう」の順に発表させ、ラベルを吟味しながら話し合いを進めていく。 考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 友達の考えと自分の考えを比較・関連して根拠をもとに事実を確かめさせる。 考える力〔比較・関連〕</p> <p>○ 交流をもとにラベル図を見直し、付加・修正する。 表現する力〔書き表す〕</p> <p>○ 最終的な答えを文章に書きやすくするために、自分の考えをマップに表した後、学習問題の答えを文章化させる。 表現する力〔書き表す〕</p> <p>○ 学習の深まりを自覚し、学ぶ喜びを実感させるために、マップ①とマップ②を比較させ、変容をみる。 学ぶ意欲・態度</p>

4 本時 ラベル図を活用した中間交流 (12 / 15)

5 本時の目標

- 「Aさんが、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうためにどことなくふうをしているのだろう」の学習問題の答えについて、調べた事実をもとにラベル図を説明することができる。
表現する力〔説明力〕
- 『ラベル図』をグループ内で交流する中で、自分と似た考えや違う考えに気づいたり、自分のラベル図を見直したりすることができる。
考える力〔比較・関連〕

6 本時指導の考え方

- 本学級の児童は、前時まで、学習問題の答えについて、「たくさん作る工夫」「おいしく作る工夫」「とどける工夫」の3つの視点から追究している。
また、児童は、文書資料で読み取ったり、Aさんや西グリーンセンターの人にインタビューをしたりしながら、分かったことを調べカードに書き、キーワードを考えながらラベル図を作り、自分なりの考えをまとめている。しかし、調べ活動が十分でない児童や視点とタイトルが繋がっていない児童、根拠をもってラベル図がつくれていない児童がみられる。
- そこで、本時指導にあたっては、学習問題の答えの同じ視点の児童で小グループで中間交流を行う。事実をもとに互いのラベル図を比較・検討し、根拠にもとづいて自信のもてるラベル図にできるように、次のような手だてをとっていく。

(1) 考えを付加・修正、高め合う交流の組織化

- 実態カルテの活用
児童一人一人が自分のラベル図を付加・修正し、自信がもてるように、実態カルテをもとに同じタイトルやキーワードがある児童同士や、ラベルが多い児童と少ない児童で、2～3名の小グループを構成をする。
実態カルテをもとに各グループの話し合いを見ながら、個の応じた発問や助言をしていく。
- 事実認識を促す活動
 - ・ 事実をもとにラベル図を見直しできるように、友達と似ているキーワードに印を付けさせたり、違うキーワードには、質問をさせたり、資料で確かめさせたりさせる。
 - ・ グループ内で役割や順番を決め説明させる。また、
「なぜ、そのキーワードが、あまおうをたくさんの人に、おいしく食べてもらう工夫なのですか。」 (学習問題の答えとつながり)
「そのキーワードは、どの資料から分かるのですか。」 (根拠の理由)
「そのキーワードの意味について説明してください。」 (事実の説明)
等、児童同士で質問させる。
 - ・ 「たくさん作るくふう」と「おいしく作るくふう」の同じキーワードの事実の根拠を話し合う。
- 学習の仕方が分かる板書
学習問題の答えの視点や中間交流の仕方を掲示しておく。特に、ラベル図の説明や質問のポイントがわかるように掲示しておく。

(2) 考えを比べたり、つなげたりして交流する場の構成

- 児童が交流で活用できる学習環境
根拠をもってラベル図を交流できるように、元岡の土地の様子やあまおうの作り方の1年間のカレンダーの資料を教室に掲示したり、調べカードをクリアファイルに入れ、各自に持たせておいたりする。
- 交流活動の形態
同じ視点でラベル図をつくっている児童で座らせ、互いに見せ合いながら、交流できるようにする。

本時の主張点

本時では、学習問題「Aさんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、どことなくふうをしているのだろう。」の答えについて、自分のラベルを見直すこと（考える力）で事実認識を確かにするをねらっています。そこで、自分の考えを説明させ、友達のラベル図を比べながら、似ている所と違う所を見付けさせます。違うキーワードには、質問をしたり事実を確かめさせたりさせながら、一つ一つのラベルを確かめ、ラベル図を付加・修正をして答えを見直します。そうすることで、考える力や表現する力が育ち、全体交流への意欲が高まると考えます。

7 本時の展開

学習活動と内容	支援 (○)・留意点 (※)
<p>1 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <p>学習問題</p> <p>Aさんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、どんな工夫をしているのだろう。</p> <p>めあて</p> <p>となりの友だちとラベルをせつ明し合い、ラベル図をつけくわえたり、いどしたりして、ラベル図をよりよいものにしよう。</p> <p>2 中間交流の仕方について説明を聞く。</p> <p>学習の流れ</p> <p>① 説明をする。聞いている人は、同じラベルに印を付ける。あとで質問する。</p> <p>② 質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題とのつながり ・根拠の理由 ・事実の説明 <p>③ ラベル図を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付け加えたり、はずしたり、移動したりする。 	<p>※ 小グループや個別指導で活用できるように、前時までの児童のラベル図をもとに実態カルテを作成しておく。</p> <p>○ ①自分の考え②そう考える理由③根拠となる事実を資料で示しながら、説明できるように、説明の仕方を事前に指導しておく。</p> <p>○ ラベル図の交流がしっかりできるように、中間交流の手順や交流のポイントを掲示しておく。</p>
<p>3 小グループで中間交流をし、自分のラベル図を修正する。</p> <p>○たくさん作る工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビニルハウス ・土づくり (ひりょう わら たいひ) ・せわ (温風き マルチ パイプ みつばち 葉をとる 夜れいしせつ) ・しぜん (広いへいち 日あたり しもがおり にくい) <p>○おいしく作る工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビニルハウス ・土づくり (ひりょう わら たいひ) ・せわ (温風き マルチ パイプ みつばち 葉をとる 玉だし 電とう) ・しぜん (日あたり) <p>○とどける工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しんせん (朝早くとる パックづめ れいぞうこ ほれいトラック) ・たくさんの人へ (京都の市場 せんでん) 	<p>※ 自分のラベルと友だちのラベルと比較し、似ているキーワードには、印を付けさせる。また、違うキーワードには、質問をさせたり、キーワードの説明させたりする。</p> <p>※ 付加修正したラベルは、色を変え、修正がよくわかるようにする。</p> <p>○ 修正が困難な児童に対しては、小グループの友だちのラベル図を参考にさせ、自分のラベル図と似た所・違う所を見つけるように助言する。</p>
<p>4 本時学習を「今日の学習で」において振り返り、自己評価を行う。</p> <p>(1) 4段階自己評価に印をつけ、「今日の学習で」を書く。</p> <p>(2) グループ内での意見交流を通して、よかったこと等を発表する。</p> <p>児童の変容の例</p> <p>わたしは、ラベル図を説明していてあまり説明できないラベルがありました。○○さんから赤い実になるように玉だしをしておいしくするくふうをしていることを教えてもらいました。今日の話合いで、ラベル図がたくさんつきくわしくなってよかったです。○○さんは、よく調べているので、すごいなと思いました。</p>	<p>○ 学習の振り返りとして自己評価できるように、4段階評価の項目を記入しておく。</p> <p>○ 「今日の学習で」では、意見交流を通して、書くようにさせる。</p>

5 本時の目標

- 学習問題の答えを、友達のリベルと比べながら、事実の根拠を確かめたり、付加・修正したりして、Aさんの願いや工夫について考えることができる。 **考える力〔比較・関連〕**
- Aさんは、自然条件やビニルハウスを利用して、土づくりやなえの世話等おいしいあまおうをたくさん作る工夫をしたり、冷蔵やせんでん等たくさんの人に新鮮なまま届ける工夫をしたりして、心をこめて作っていることを理解することができる。 **生きて働く知識**

6 本時指導の考え方

- 本学級の児童は、前時までに、中間交流で2～3人の友達と交流し、ラベル図を修正したことでラベル図に自信をもち、全体交流に対する意欲が高まってきている。
- そこで、本時指導にあたっては、ラベル図や資料をもとに児童の考えを比較しながら交流し、Aさんがあまおうを食べてもらうために取り組む工夫について考えさせるために、次のような手立てをとる。

(1) 考えを付加・修正し、高める交流の組織化

- 実態カルテの活用
3つの視点である「おいしく作る工夫」「たくさん作る工夫」「届ける工夫」の事実認識がしっかりできるように、実態カルテをもとに、必要に応じて付加・修正ができるような児童の指名を行う。
- 発問
ラベルの根拠になる事実を説明できるように、事実の根拠がどこにあるかをたずねる発問をする。
 - ・なぜ(ラベル)がたくさんの人に食べてもらう工夫なのですか？ (学習問題の答えとのつながり)
 - ・その事実は、どの資料から分かりますか？ (根拠の説明)
 - ・(ラベル)の意味について、説明して下さい。 (事実の説明)
 また、見学や資料から読み取った事実がうまく説明できない児童には、見学の時に捉えた事実を想起させる発問をする。また、資料を説明するときに、足りない点は児童に問い返し、資料から得られる事実を明確にさせる指導をする。
- 板書
自分のラベルと説明されたラベルを比べて、付け加えをしたり質問をしたりすることができるように、視点毎にラベルを操作していく。尚、操作しやすいように、ラベルを移動しやすいカードにしておく。
また、自分のラベルと板書でのラベルを比較することができるように、児童がもつ視点毎のラベルの色と板書で使うラベルの色を同じものにし、比べることが出来るようにする。

(2) 考えを比べたり、つなげたりして交流できる場の構成

- 児童が交流で活用できる学習環境
本時では、Aさんの工夫を見学やインタビューで調べてきた事実をもとに考えることを大切にしている。そのため、根拠となる資料を指し示しながら説明できるように、全員に見える資料の掲示をする。
児童の学習問題の答えがよりよいものになっているかを確認するために、付加・修正したラベルを違う色のラベルにする。

本時の主張点

本時では、Aさんのおいしいあまおうをたくさんの人に食べてもらう工夫について、学習問題の答えを話し合い、事実認識を確かなものにする姿(比較・関連づけて考える力の育成)をねらっています。「おいしく作るくふう」「たくさん作るくふう」「とどけるくふう」の3つの視点についてタイトルやラベルを1つ1つの事実をもとに確かめていきます。そのために、特に、ラベルの根拠になる資料の説明をもとに交流する活動に重点を置いて交流させていきます。

7 本時の展開

学習活動と内容	支援(○)・留意点(※)
<p>1 今日の学習のめあてをもつ。</p> <p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Aさんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、どことなくふうをしているのだろう。</p> </div> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習問題の答えについて、みんなで話し合い、ラベル図をもっとよいものにしよう。</p> </div>	<p>※ 今日の学習の見通しがもてるように、学習の流れを掲示し、確認しておく。</p> <p>※ 児童が発表する際に、自信をもって発表ができるように、同じ視点のグループの席にする。</p> <p>※ 児童が調べた事実を資料や見学をもとに説明できるように、席をコの字型にし資料が全員から見えるように配置する。</p>
<p>2 ラベル図をもとに、Aさんの工夫について話し合う。</p> <p>(1) 「おいしく作るくふう」「たくさん作るくふう」「とどけるくふう」の順に、調べた事実を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おいしく作るくふう」 ビニルハウス、ひりょう、みつばち、玉出し ・「たくさん作るくふう」 ビニルハウス、ひりょう、みつばち、温風機 ・「とどけるくふう」 パックづめ、れいぞうこ <p>(2) 「おいしく作るくふう」と「たくさん作るくふう」の同じラベルについて、事実の根拠を話し合う。</p> <p>〈予想される意見の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みつばち一形をよくしておいしく作る工夫 早く受粉してたくさん作る工夫 	<p>○ 交流活動を活性化させるために、最初にラベルを提示する児童は、付加・修正しやすいラベルをもつ児童を意図的に指名する。</p> <p>○ ラベルに対する意見には、なぜそのラベルが学習問題の答えになるのか、見学や資料から分かる根拠を説明させる発問をする。</p> <p>○ 交流活動でラベル図に必要なラベルが出ていない場合、実態カルテをもとにとらえさせたいラベルをもっている児童を意図的に指名したり写真等提示して補足する。</p>
<p>3 Aさんが心をこめてしていることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの苗の葉を一つ一つとる。 ・ 一粒一粒丁寧に収穫している。 ・ 毎朝早くから新鮮なあまおうを収穫している。 ・ 1年間もかけて土作りや苗を育てている。 	<p>○ Aさんのおいしく食べてもらいたいという願いから様々な工夫や努力をしていることに気づかせるために、3つの視点から出た願いに関わるラベルに○をつけ、強調する。また、ラベルが出なかった場合は、Aさんの願いが感じられる資料を提示する。</p>
<p>4 話し合ったことをもとに自分のラベル図を見直し、付加・修正を行う。</p> <p>まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Aさんは、あまおうをたくさんの人においしく食べてもらうために、あまおうをおいしくたくさん作るくふうやしんせんととどけるくふうだけでなく、一つ一つ心をこめて作っている。</p> </div>	<p>※ ラベルの付加・修正は、それが分かるように、色のちがうカードを使う。</p>
<p>5 「今日の学習で」を書く。</p> <p>予想される児童の変容の例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わたしは、Aさんがおいしいあまおうを食べてもらうために、自然やビニルハウスを利用しながら、土作りやなえのせわをくふうしておいしくたくさん作り、しんせんなままたくさんの人にとどける工夫をして、心をこめて作っていることが分かった。</p> </div>	<p>※ 「今日の学習で」で書くことが難しい児童がいた際は、付加・修正したラベル図をもとに、自分が最初に考えていた考えから、今日の話し合いでどんな考えになったのか書くように説明する。</p>

